

令和5年第3回燕市議会定例会
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式		
					一括質問	一問一答	
9月5日(火)	午前	1	タナカ・キン	議員		○	
	午後	2	高橋	妙子	議員		○
		3	長井	由喜雄	議員		○
		4	大島	靖浩	議員		○
6日(水)	午前	5	近藤	隆行	議員		○
		6	佐野	大輔	議員		○
	午後	7	小林	由明	議員		○
		8	藤井	秀人	議員		○
		9	齋藤	和也	議員		○
		10	小林	秋光	議員		○
7日(木)	午前	11	土田	昇	議員		○
		12	渡邊	広宣	議員		○
	午後	13	稲村	隆行	議員		○
		14	宮路	敏裕	議員		○
		15	岡山	秀義	議員		○

令和5年第3回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 体育館空調設備の導入について	(1) 体育館空調設備の導入について	<p>今年の夏は35℃以上の猛暑日があたり前という日が続いた。熱中症での救急搬送も多く、中には亡くなってしまう人も連日の様に報道されていた。体育館は災害時において避難場所に指定されている。特に夏場の熱中症対策には頭を悩ませている自治体も多いことである。</p> <p>体育館の空調設備の導入については、昨年3月と9月議会で同僚議員が一般質問を行っている。その時の答弁では、多額の予算が必要であり考えていない。</p> <p>また、暑さ対策としては大型扇風機とスポットクーラーで対応しているとも答えている。</p> <p>①スポットクーラーの効果について伺う。 ②スポットクーラーの保有台数を伺う。 ③小学校・中学校の体育館、その他の市民体育館に空調設備を導入した場合の事業予算について伺う。 ④「ヒエスポ」という移動式エアコンがある。性能はスポットクーラーと比較にならないという。全国各地での「ヒエスポ」活用例をみると、神奈川県にある自衛隊武山駐屯地にある約2,400㎡の体育館でも使用している。燕市で空調面積が広い分水総合体育館で約2,300㎡。中学校5校の平均が1,400㎡、小学校15校の平均が約1,000㎡であることを考えると、かなり実用的であるといえるだろう。県内の村上市では防災備蓄品として導入したと聞いている。体育館の冷房について「ヒエスポ」の導入を検討してもいいと思うが伺う。</p>
		2. 市民の文化活動について	(1) ロック&フォークフェスタについて	<p>①「広報つばめ」8月号に「つばめ音楽祭」出演者募集が告知されていて、応募資格①に県央地域を拠点に音楽活動している団体・個人(ロック&フォークフェスタは3人以上の団体のみ)となっている。私の若い時はアリスなどの3人のフォークグループもいるにはいたが、フォークは1人か2人組が主流である。1人・2人組を排除しているのは不公平だと思うが理由を伺う。</p> <p>②ロック&フォークフェスタの歴史を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	タナカ・キン (一問一答方式)	2. 市民の文化活動について	(2) 燕市勤労青少年ホームでの活動について	<p>①ビジョンよしだの並びにある、以前は吉田青少年ホームとっていた施設である。7月30日に燕市ビジョンよしだリニューアルオープンセレモニーが開催され、バンド演奏とハワイアン踊りを見学しにいったのである。</p> <p>終了後、バンドのリーダーから自分達の練習場である燕市勤労青少年ホームが取り壊されると行き場が無いとの相談を受けた。</p> <p>1週間後にバンドの練習を見に青少年ホームに伺った時の話である。</p> <p>空調機が壊れて冷房がきかなくて暑い中で練習をしていたが、いつからそんな状態になっていたのか？</p> <p>②スポットクーラーを使用することは考えられなかったのか伺う。</p> <p>③生涯学習に関する事務報告を確認すると、平成21年～平成25年の5年間の利用者が平均23,587人で年間2万人を超えていたが、令和2年からは1,000人を切っている。この主な理由について伺う。</p> <p>④利用する市民は、どういう活動をされていたのか伺う。</p> <p>⑤この施設は燕市建物系公共施設保有量適正化計画で取り壊される予定になっている。スケジュールについて伺う。</p> <p>⑥取り壊された後、利用者の活動場所について考えているか伺う。</p>
2	高橋 妙子 (一問一答方式)	1. 重症心身障がい児及び医療的ケア児の支援について	(1) 重症心身障がい児及び医療的ケア児の支援と課題について	<p>①燕市障がい者基本計画の中で、重症心身障がい児、医療的ケア児については、障がい福祉サービスを提供できる事業所数が少なく、十分に支援できない現状があるので、保健、医療、福祉及び教育の各分野が相互に連携し、支援体制を構築していく必要があるとあります。</p> <p>重症心身障がい児、医療的ケア児とそのご家族がそれぞれの地域で安心して生活していけるよう、ご家族だけではまかない切れない労力に対して、切れ目のない支援体制を整えていくのは待ったなしだと認識しておりますし、何よりも子供達とご家族の悩みやニーズに寄り添った支援を今よりも充実させていかなければいけないと思っています。</p> <p>重症心身障がい児、医療的ケア児への支援と親御さんやご家族の負担を軽減するなどの支援、この2つの支援が両立されていることが重要だと思いますが、今後の重症心身障がい児と医療的ケア児及びそのご家族への支援について市の考えを伺います。</p> <p>②「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」に基づき、医療的ケア児等に対する支援の拠点となる、新潟県医療的ケア児支援センターが令和4年に設置されました。</p> <p>委託先は社会福祉法人長岡福祉協会となっておりますが、医療的ケア児支援センターの主な業務を伺います。</p> <p>(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	高橋 妙子 (一問一答方式)	2. 化学物質過敏症について	(1) 公共施設における化学物質過敏症の実態把握と予防対策及び周知について	<p>化学物質過敏症とは、微量の化学物質に反応してしまう疾病のことです。しかし、県内には、専門の治療を受けられる医療機関がないのが現状です。</p> <p>これまで科学物質過敏症は、保険適用されずに全額自己負担でありましたが、2009年に保険適用病名として正式決定されております。</p> <p>そして、化学物質過敏症で療養中の方が日常生活に支障をきたす場合は、障害年金の対象となる場合もあり、生活が保障されているケースもあります。</p> <p>2003年には、塗料に含まれていたほんの微量のトルエンキシレンで体調の変化があった男性会社員が労災認定されており、厚労省は、化学物質過敏症は法令上規定された疾病ではないが、明らかに業務上の原因で発症したと認められる部分があれば労災認定されることになるとしております。</p> <p>私が相談を受けた方のお子さんは市内公共施設の掃除用床ワックスの臭いで体調不良を起こし、その施設に行けなくなってしまったそうです。</p> <p>他人の制汗スプレーの匂いにも過敏に反応してしまい、体調不良を起こすので、真夏でも外出時はマスクの上にスカーフを巻いて外に出ているとお聞きしました。</p> <p>他に、化学物質過敏症の症状が出ている市民の方にもお話を伺いましたが、「周囲の理解が得られないことが一番辛い」と皆さんが共通しておっしゃっています。</p> <p>また、「精神的なもので具合が悪くなっているのでは？」と言われ、傷ついたとおっしゃる方もいて、やはり化学物質過敏症を皆さんに少しでも理解していただきたいと思い、今回の一般質問に取り上げさせていただくことにしました。</p> <p>①シックハウス症候群と同じような症状がみられる場合もある化学物質過敏症ですが、市民の皆さんにもご理解をいただくために、シックハウス症候群と化学物質過敏症、それぞれの症状と違いについて伺います。</p> <p>②自分やご家族が化学物質過敏症ではないかと思われた方々や、匂いで体調を崩してしまう方が市に相談する場合、担当される課はどこになるのか伺います。</p> <p>③市内の公共施設での床ワックスの匂いで体調を崩してしまったことに関しての相談をいただきましたが、市にも、床ワックス等それらに含まれる化学物質に関しての相談は今までにあったのか伺います。</p> <p>④新潟県のホームページでも化学物質過敏症の周知がされております。</p> <p>燕市でも、化学物質過敏症に対して理解していただくために、ホームページ等で周知していただきたいのですが伺います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	高橋 妙子 (一問一答方式)	2. 化学物質過敏症について	(2) 学校における化学物質過敏症の実態把握と予防対策について	<p>学校においても掃除用床ワックスや洗濯後の給食エプロンなどが原因で化学物質過敏症を発症してしまうケースがあります。</p> <p>集中力の欠如や落ち着きがなくなるなどの症状が出る場合もあり、学習障害や多動を引き起こしてしまうという報告もあります。</p> <p>市内の学校では、学校内の匂いで体調を崩してしまった児童生徒の報告、相談はないとのことでした。</p> <p>また、給食時に使用する給食エプロンも多くの学校が個人所有となっており、洗濯での洗剤や柔軟剤等で体調を崩すような報告はないとのことでした。</p> <p>それはとても良いことではありますが、報告や相談がないということが、問題ゼロということではないので、児童生徒の安全を守るためにも、学校内における化学物質の問題は考えていかなければならないと認識しております。</p> <p>①学校では、匂いに過敏に反応してしまう児童生徒、化学物質過敏症と思われる児童生徒を把握しているか伺います。</p> <p>②学校の保健だよりで化学物質過敏症について周知されたことはあるか伺います。</p>
3	長井 由喜雄 (一問一答方式)	1. 保育園・こども園等および学童施設の情報公開について	<p>(1) 公立保育園・こども園・幼稚園の個別ホームページの開設について</p> <p>(2) 公立保育園・こども園・幼稚園および学童施設における第三者評価について</p> <p>(3) 保育学生奨学金支援制度の利用と保育人材確保について</p>	<p>①公立保育園やこども園などにおける情報は市のホームページでは「施設一覧」でしか見ることができず、それも施設名と電話番号だけでしかない。</p> <p>預けたい親が保育施設を選びたくても各施設の保育方針や保育の特色などを知ることもできない。</p> <p>私立ではホームページで情報を公開することは当たり前のことになっており、公立においても必要と考える。</p> <p>市はこのことをどう考えるか伺う。</p> <p>②児童クラブ、なかまの会においても同様と考えるのがかか。</p> <p>①命を預かる施設では施設運営についての客観的評価は、当然必要なこととされ、社会福祉法人などでは評価機関に依頼して客観的評価を公表しているところが増えている。公立である施設においても同様のことが言える。</p> <p>燕市においても公立保育園・こども園・幼稚園において「第三者評価の公表」が求められ、必要なことと考えるが考えを伺う。</p> <p>②児童クラブ、なかまの会などについても第三者評価の導入は必要なことではないか考えを伺う。</p> <p>①市は、今年度の正規保育士確保が実現できなかったことに危機感を持ち、急遽保育学生の奨学金支援制度を実施したが、申し込みの状況はどうであったか。</p> <p>保育施設における実習生や学生ボランティアの受け入れ状況は実際どうなのか。保育人材確保の観点から考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
3	長井由喜雄(一問一答方式)	2. 生活保護受給者が大学生・専門学校生となった時の支援について	(1) 保護世帯から世帯分離される新学生への独自支援について	<p>①生活保護受給世帯において、子供達が大学進学、専門学校進学を目指し、これらに就学した段階で世帯分離となり生活保護受給停止となる。 燕市における進学による世帯分離の状況はどうか。 進学希望者は、給付型奨学金の申請も一部可能ではあると思うが、生活を成り立たせるためのものではなく制度の矛盾として深刻なものとなっていると考える。 燕市は看護学生や保育学生に対して一定条件のもとで返済無用とする奨学金制度を設けた。 生活保護受給の状況にある進学生に対し、支援のための給付制度を設けてほしいと考えるがいかがか。</p>
		3. 学校体育館等の暑さ対策について	(1) 学校体育館の暑さ対策について	<p>①言うまでもなく近年の異常気象は夏の気温を押し上げ30度超えが当たり前となってきている。 学校施設においては、普通教室、特別教室などの冷房は整備されたが、体育館の冷房も求められている。 夏季休業以外の授業が行われる日においても暑さの問題は大きな課題ではないか。 夏季休業日を除き、体育館の気温は把握しているか。 教育委員会として体育館の暑さ対策にどう取り組むのか考えを伺う。</p>
			(2) 避難所として想定されている施設の暑さ対策について	<p>①避難所として指定し、実際に避難者を受け入れる施設における暑さ対策についての冷房対策について伺う。</p>
		4. 第9期に向けた介護保険について	(1) 第8期における総括的課題について	<p>①第8期が今年度最後となり、第8期における介護保険計画に示した事業の進捗はどうであるか伺う。 ②介護給付費伸びはどうであったか伺うとともに、事業者からの声などから課題となる問題把握はされているか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
3	長井 由喜雄 (一問一答方式)	4. 第9期に向けた介護保険について	(2) 第9期に向けて	<p>①第8期は新型コロナウイルス蔓延やロシアによるウクライナ侵攻なども重なって、公共料金をはじめ、食材料の高騰に見舞われ大変な事態となる中での介護保険事業であったと思う。</p> <p>市は、コロナ対策の中での国からの交付金も、市民生活を支えることをはじめ介護運営施設などへの補助としても活用してきた。</p> <p>これら増額した費用を全て介護点数に反映させることになると、被保険者の保険料が大きく増えることが想定される。市としては国に対して保険料に連動しない形での交付金措置として国に求めるべきと思うが市長の考えを伺う。</p> <p>②「8050」、「9060」など、高齢者を支える老老介護的な状況は深刻化しつつあると考える。</p> <p>各種調査も実施されていると思うが、それらから見える課題についてはどうか。そしてさらに包括支援センターの果たす役割と期待は増す一方ではないかと思う。</p> <p>体制の強化と充実を第9期の計画に盛り込む必要があると思うが、保険者の考えを伺う。</p> <p>③高齢者をはじめ市民が暮らす状況は一段と厳しさを増している。</p> <p>第9期に向けた介護保険制度の中で国が利用者負担を増すような政策、制度変更をしないよう求めることが保険者としての役割であり、責任でもあると考える。</p> <p>保険者としての考えを伺う。</p> <p>④介護施設などは第三者評価を受ける対象となり、法人、事業所などでは客観的な評価を受ける中で介護サービスの向上に努力されている。</p> <p>しかしながら、第三者評価を受けるには相当の費用がかかり、これに対して行政からの補助を求める声も大きい。</p> <p>燕市として、市民の介護サービスを担ってもらふ事業所などに対しての評価費用補助の新設を求めるがいかがか。</p>

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
4	大島 靖浩 (一問一答方式)	1.「燕市障がい者基本計画・第6期燕市障がい福祉計画・第2期燕市障がい児福祉計画」に係る中間評価としての現状と対策について	(1) 燕市の障がいのある人の状況 (2) 地域の中で安心して健やかに暮らせるまちづくり	<p>①障がい者手帳の種類別の所持者数について伺う。</p> <p>②福祉に関するアンケート調査(以下「本調査」という。)から、発達障害を最初に気づいた人は保護者が53.2%であったことから、保護者が速やかに気付くための周知・啓発方法について伺う。</p> <p>③本調査によれば、1年以上相談しなかったと回答した保護者が、8.9% 7人となっているが、なぜ適切な関係機関に繋がらなかったのか参考となる事例があれば伺う。</p> <p>①本調査によれば、「経済的な負担の軽減」が259人60.0%と最も高く、次いで「相談支援の充実」が204人47.2%などとなっているが、経済的な負担の軽減策及び、相談支援の充実のための具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>②本調査のうち、「障害者差別解消法」を知っているかの問いに「内容を知っている」と回答した者が3.2%であったことから、市はあらゆる場面で合理的配慮の推進や、差別・虐待の防止といった人権擁護意識の啓発が必要としているが、各年度の具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>③令和6年4月1日に施行される改正障害者差別解消法では合理的な配慮が求められることから、各学校が実施している合理的配慮について伺う。</p> <p>④第2期燕市障がい児福祉計画(以下「本計画」という。)では、成果目標達成に向けた施策の展開として、主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所を確保するため、自立支援協議会でニーズや課題について協議する。 また、医療的ケア児支援のための協議の場の設置及びコーディネーターの配置について検討するため、関係機関に働きかけを行うとしているが現状はどの程度進行しているか。具体的な計画を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	大島 靖浩 (一問一答方式)	1. 「燕市障がい者基本計画・第6期燕市障がい福祉計画・第2期燕市障がい児福祉計画」に係る中間評価としての現状と対策について	(3) バリアフリーに配慮し、障がいのある人が安心して快適に暮らせるまちづくり	<p>①本計画では、関係機関と連携し、公共交通機関・施設の快適な利用に向け、多機能トイレの設置、トイレの洋式化など全ての人が利用しやすい施設の環境整備に努めるとしているが、市内学校のトイレの洋式化率及び公共施設における多機能トイレ設置状況について伺う。</p> <p>②日常的な見守りに向けた具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>③聴覚・言語機能に障がいのある人のためにファクシミリによる119番通報や緊急web版通報システムの周知について伺う。</p> <p>④障がいのある人の講演会、学習機会等への参加を促進するため、情報を入手するためのサポートとして手続通訳、要約筆記等を派遣した回数及び内容を伺う。</p> <p>⑤共生社会の理解を目的とした車椅子バスケットボールのデモンストレーションが、「あすチャレ！スクール2022」として、令和4年11月10日吉田中学校において行われた。 私もそれに参加したが、生徒の真剣かつ楽しそうに取り組む姿が印象的であった。 それに参加した生徒らの感想から目的に合致した内容であったか伺う。</p> <p>⑥本計画に特別支援教育を充実させるため、児童・生徒数に応じて特別支援教育支援員等を配置し、きめ細かな支援を行うとあるが、支援員の総数と各学校への配置割合と今後の見通しを伺う。</p> <p>⑦本計画に障がいの有無に関わらず可能な限り子供たちが共に教育を受けられるよう、インクルーシブ教育システムの構築を図るとあるが、インクルーシブ教育を実践している学校とその際の問題点と良好な点を伺う。</p>
5	近藤 隆行 (一問一答方式)	1. 安心安全の子育て環境について	(1) 送迎バス安全装置設置事業について	<p>①昨年9月静岡県で、炎天下のなか園児が送迎バスに取り残され、亡くなるという大変痛ましい事故が発生してしまいました。 それを受け、今年度4月から送迎バス安全装置の設置が義務化となり、市としてもいち早く対応するため、昨年度に補正予算が組まれていたと思う。 こども家庭庁が6月27日に発表した設置状況の調査結果では、6月末の時点で設置率は全国平均55.1%にとどまることがわかった。新潟県の設置状況は57.8%だったが、市での設置状況について伺う。</p> <p>②園児、児童が送迎バスに取り残されるという事故が今後発生しないために、市としてどのような対策が講じられているか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	近藤 隆行 (一問一答方式)	1. 安心安全の子育て環境について	(2) 男性従業員の育児休業について	<p>①市では令和2年度に「つばめ子育て応援企業サポート事業」がスタートし、「つばめ子育て応援企業」認定制度や、男性従業員が育児休業を取得した際の奨励金の交付などを行ってきた。今年度からは男性の育児休業取得促進奨励金制度に、新たに取得期間50日以上交付区分を設け、より長い期間や分割での男性育児休業取得を後押ししてきたと思う。この支援を受けるためには、「つばめ子育て応援企業」の認定が必要であるが、「つばめ子育て応援企業」の認定状況や、その推移を伺う。</p> <p>②「つばめ子育て応援企業」で働く男性従業員の育児休業の取得状況と、その推移を伺う。</p> <p>③市は第3次燕市総合計画の中で、男性の育児休業取得促進奨励金の交付目標を設定していたが、その目標達成のための今後の施策について伺う。</p>
		2. 観光誘客の促進事業について	(1) 燕ソウルフード観光プロモーション事業について	<p>①令和3年に文化庁の「未来の100年フード部門 ～目指せ、100年！～」に認定された燕背脂ラーメン。第3次燕市総合計画においても、魅力あふれる観光の振興のため、積極的に情報発信し、さらなる誘客を促進していくとある。燕市観光協会の「燕背脂ラーメンMAP」があるが、現状市内の背脂ラーメン提供店舗のMAP掲載状況を伺う。</p> <p>②今年度からスタートした「燕ソウルフード観光プロモーション事業」で、現在「燕背脂ラーメン」のぼり旗を店舗に提供してのPRや、「燕背脂ラーメン シール祭り」など行っているが、参加店舗や状況など伺う。</p> <p>③燕市の魅力あふれる観光の振興において、市の産業の発展とともに誕生した歴史を持ち、現在でも人気のある「燕背脂ラーメン」は非常に有効な観光資源であると考え。観光の振興のために、市は今後「燕背脂ラーメン」をどのように発信し、誘客を促進していくのか伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	佐野大輔 (一問一答方式)	1. 発達障害の早期療育について	(1) 発達障害の可能性があるお子さんの人数の把握について	<p>発達障害者支援法において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されています。</p> <p>2022年に文部科学省が行った「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」では、「知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で著しい困難を示す」とされた小・中学生の割合は、前回2012年の調査より2.3ポイント増の8.8%と発達障害の可能性のある子供が10年前よりも増えている現状が把握されています。</p> <p>増加の要因については「発達障害」への認知の広がりも大きいと見られますが、一方で学校現場での対応や保護者の方の対応は非常に困難で、特に保護者の方は自分の子供が将来働くことができるのか、一人で生きていくことができるのかということを実際に心配されておられます。</p> <p>①全国の状況を踏まえて燕市内にどれくらいのお子さんが発達障害の可能性があると把握しているのか、また過去の数値との増減についてお聞きします。</p> <p>②市としてこのような発達障害の可能性のあるお子さんが全国的に増えている状況を踏まえてどのように捉えているかお伺いします。</p>
			(2) 発達障害を持つお子さんの早期発見について	<p>①発達障害について、さまざまな文献や大学の有識者の方からお聞きした際に、必要なのは早期発見であり、早期に発見し、療育を進めていくことで障害の影響を少なくすることができる、また、できることを多くすることができるという話をお聞きしております。</p> <p>燕市においては、早期発見に向けてどのような取り組みを行なっているかお聞きします。</p>
			(3) 発達障害の早期発見・早期療育に向けた県との連携について	<p>①実際に早期発見し、かつ、早期に適切に支援するためには、病院での発達障害の診断が必要であり、この地域では、県立吉田病院がその役割を大きく担っています。一方で、これまで新潟市内の他の病院が新患の受け入れを行わなくなったことにより県立吉田病院に新潟市の方が診察を受けるケースも増えていると把握しています。</p> <p>その上で、県立吉田病院にてこれまで通り、また、これまで以上に発達障害の方に対応できるように十分な医師の確保に向けて県と密に連携できる仕組みづくりができないか伺います。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	佐野大輔 (一問一答方式)	2. 中学校における部活動のあり方について	(1) 猛暑における対策について	<p>近年の夏の気温の傾向は、お隣の三条市が時折全国一位の気温になるように燕市でも39度前後の非常に高い気温を計測する機会が増えてきている。</p> <p>その中で、中学校で夏場に部活動を行うことは熱中症のリスクが高く、7月には山形県で部活動を終えた女子中学生が帰宅途中に熱中症とみられる症状で搬送されその後、死亡した事例もあり、夏場での部活動を行う判断は非常に困難な状況であると認識しています。</p> <p>①燕市では、猛暑時に部活動を行う、行わないという判断をどのように行なっているかも含めて市としての猛暑時の部活動についてどのように考えているか伺います。</p> <p>②猛暑時における部活動の対応を考えた時に熱中症のリスクから部活動を停止することも考えられるが、部活動が教育活動の一環として位置付けられていること、また、スポーツの競技力の向上を考えた時にも継続して部活動を続けることも子供たちにとっては重要であると考えます。</p> <p>その上で、暑いからということで活動をすぐに中止にするのではなく、市として暑さ対策や冷房設備の設置などの環境整備を行うことにより、気温が高温であっても部活動を行うことができる環境づくりをすることも大事だと考えますが、暑さ対策について市として具体的にどのように考えているのか伺います。</p> <p>③山形県の事例を受けて、部活動終了後にそのまま帰宅させるのではなく、少しの時間でも冷房等を設置している教室等で冷たい水分を補給するなどクールダウンの時間の確保及び対応を行うことで帰宅時のリスクを緩和できると考えますがいかがお考えか伺います。</p>
		3. 行政のDX化について	(1) 体育施設や文化施設の施設予約のDX化について	<p>市では、行政サービスがいつでも、どこからでも利用できる「デジタル市役所」に向けた取り組みを令和2年より推進し、DX化を通して、これまで以上に市民サービスの向上や業務効率化を図っていく必要があると考え、今年度より燕市DX推進計画を進めていると承知しています。</p> <p>①現在、体育施設や文化施設において、施設予約を行う場合には、各施設に電話もしくは直接伺って聞く以外に予約状況を把握できる方法がありません。これは特に新規の利用者にとっては一つひとつ確認が必要で、非常に大変であると考えます。</p> <p>一方で、かつてはオンラインで把握できる「公共予約システム」があり、2020年に終了した経緯もホームページ上から確認できます。</p> <p>その活用を終了した事例も含めて、施設予約や利用状況についてオンラインで把握できる仕組みづくりを再構築できないかお伺いします。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
7	小林由明 (一問一答方式)	1. 持続可能都市の実現について	(1) 人口密度と住環境整備について	<p>①人口増を実現している自治体や社会減を抑制している自治体では、子育て環境の充実に加え住環境の整備にも注力していることが、様々な調査で明らかになっている。</p> <p>燕市では、「子育てするなら燕市」を掲げ子育て環境の充実を注いでおり、また移住定住者の住宅取得補助などを実施し、住居確保の手厚い支援をおこなっている。</p> <p>こうした鈴木市政4期の取り組みによって、燕市の社会動態は比較的良好な状態を保ち続けていることは高く評価されるべきである。</p> <p>しかしながら、他の自治体同様、市街地外縁部における宅地造成が進み、居住誘導区域内のスポンジ化や高齢化はとどまることが無いというのも実際である。</p> <p>都市の持続可能性を高めるためには人口密度の維持向上が必要であり、そのためにも、居住誘導区域内での住環境の整備を進め居住誘導をさらに力強く推進していく必要がある。</p> <p>どれだけ魅力あるまちであっても、不動産の流通が進まず住むところがないとすれば転入することはできない。住むところなくして住民無く、住民無くして自治体はない。</p> <p>官主導、民主導、官民連携などいずれの方法でなされるかはともかく、住居整備は持続可能都市の実現において極めて重要な取り組みであると考えている。</p> <p>今後の居住誘導区域内での住居整備について、どのような考えを持っているか伺いたい。</p> <p>②比較的良好な社会動態を維持している燕市であるが、居住・都市機能誘導区域内への居住や創業の誘導について、これまでの取り組みからその課題は何であると考え、今後そこにどのように取り組んで行こうと考えているか。</p> <p>③多死のピークを迎えるとされる2040年ころに向けて、居住誘導区域内の人口密度の急激な低下や自治会の消滅、さらに、特定空き家や管理不全化する空き家等の加速度的増加が予想される。</p> <p>令和3年に、所有者不明土地等の発生予防と利用の円滑化の両面から総合的に民事基本法制が見直され、さらに今年、空き家等対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律が成立し、空き家等の対策についてこれまで以上に踏み込んだ取り組みが可能となる。</p> <p>市ではこうした法改正により、これまでの空き家対策での課題にどのような有効策を講じることができると考えているか伺いたい。</p> <p>④市では解体撤去費助成や燕市空き家跡地活用促進補助金を実施し、さらには、中心市街地再生モデル事業により居住誘導区域内の環境向上に取り組んできており、その姿勢や成果は高く評価されるべきものと考えている。</p> <p>居住誘導区域内における空き家等のさらなる除却を進め安全な住環境を実現するとともに、空き家等の活用やある程度の規模の宅地整備などが進むよう、空き家等活用促進区域や指針を早急に定め、取り組みを進めるべきと考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
7	小林 由明 (一問一答方式)	2. 救命法の普及について	(1) 小中学校における救命法教育について	①教職員等が連携して迅速・適切に救命活動を行うために、どのような取り組みをおこなっているか。 ②AEDの設置は進んでいるが、胸骨圧迫の重要性、必要性を認識しているか。 ③児童生徒に対する救命法教育についての考えを伺いたい。
		3. 行政サービスの利便性向上と電子メールを用いた申請について	(1) 電子メールを用いた各種申請について	①電子メールを用いた各種申請について、今後さらにその範囲を拡大していくべきと思うがいかがか。 ②体育施設などでは電子メールを用いた申請ができないうえ、施設予約の状況も見えないままとなっている。ネット社会における施設利用の利便性向上をどう考えているのか。
8	藤井 秀人 (一問一答方式)	1. 今後の道路計画について	(1) 分水地区、国道116号線、拡幅工事予定について	①国道116号線吉田バイパスの方向性が決まった今、延長線にある分水地区、国道116号線の拡幅の要望は、国へはお願いされているのか伺いたい。
			(2) 信濃川沿いの堤防道路について	①八王寺より信濃川沿いの堤防道路は熊森地区で止まっており、長岡市入口の本川橋までの間が直接通れない状況にあるが、堤防道路の熊森地区から大川津地区までの通行は可能に出来ないのか伺いたい。 ②新浄水場完成まであと2年、浄水場わきから堤防道路に直結する道路の誘導は考えていないのか伺いたい。
			(3) 観光の誘導のための道路整備計画はあるのか	①国道289号線の開通により福島県との行き来も良くなるが、バイパス計画も含め、道の駅国上への誘導のための道路の計画はされていないのか伺いたい。 ②他町村との観光の連携を強化する上で道路整備は重要であり、その観点での整備計画は考えられているのか伺いたい。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	齋藤和也 (一問一答方式)	1. 食育について	(1) 第2次燕市食育推進計画の現状と今後について	<p>2022年度世界の食料安全保障指数において、日本は113カ国中総合6位となり、指数上位に位置している一方で、品質と安全性については30位と先進国の中で遅れを取っています。</p> <p>また若者の食生活の乱れは顕著で、好きなものだけを食って、ファストフードやコンビニ食など添加物が多く含まれるものを食べるなど食生活が乱れている現状があります。食事は人間にとって欠かすことのできない重要なものであり、成長途中の子供達にとってはより一層重要性が増します。</p> <p>以上を踏まえ、以下の内容を伺います。</p> <p>①燕市が行っている食育について、進捗状況や現状の取り組みについて伺います。</p> <p>②食の安全への理解については、各家庭でどのような指導や取り組みを行っているのか市は把握しているか。また、燕市として各家庭や保護者に向けた指導や講座などを行っているのか伺います。</p> <p>③今年度が第2次燕市食育推進計画の最終年度となりますが、今後の食育に関する取り組みや方向性について伺います。</p>
10	小林秋光 (一問一答方式)	1. 松長小学校統合準備支援策とスクールバス運行、閉校後の跡地活用計画	<p>(1) 学校統合準備支援策とプログラムの進捗状況</p> <p>(2) スクールバス運行に関する課題</p> <p>(3) 閉校後の跡地活用計画の検討内容と方針</p>	<p>①学校統合に向けた児童と保護者への準備支援策に関連する進捗状況を伺います。特に、準備支援策が適切に進行しているか伺う。</p> <p>②保護者向けの情報提供やコミュニケーション手段に関して、具体的な取り組みとその効果について伺う。</p> <p>①スクールバスの運行に関する保護者からの声を踏まえ、現在の運行状況において課題となっている点を伺う。</p> <p>②今後の運行改善に向けてどのような計画が進められているか伺う。</p> <p>③スクールバスの安全対策や具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>①閉校後の跡地の活用計画について、現在の検討内容や具体的な方針、計画の進捗状況について伺う。</p> <p>②閉校後の跡地活用計画において、地域の住民や保護者の声をどのように収集し、そのニーズや意見を考慮して計画を進めているか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
10	小林秋光 (一問一答方式)	2. 電動キックボードの都市交通共存と安全性確保	(1) 都市交通と電動キックボードの共存に関する取り組み	<p>2023年7月の法改正によって、16歳以上なら運転免許不要・ヘルメットの着用が努力義務で電動キックボードに乗れるようになりました。</p> <p>この電動キックボードが注目されている中で、その都市交通共存と安全性確保に焦点を当てて質問をさせていただきます。</p> <p>①電動キックボードが普及する中、歩行者との衝突や安全性の問題が懸念されています。 市内の歩行者道路や人通りの多いエリアにおける安全対策はどのように進められているか。</p> <p>②電動キックボードの駐車場所を確保するための施策やルール整備についての取り組みはどのように進められているか伺う。</p> <p>③特定小型原付の利用が広がる中で、運転者の交通ルールへの遵守が求められます。 特に、16歳以上で免許証不要となるため、交通ルールを守るための啓発活動や教育はどのように行われているか伺う。</p> <p>④自転車、車、公共交通機関など、モビリティの異なる人々の利用も考慮しながら、電動キックボードの都市環境を両立させるための施策はどのように進められるのか伺う。</p>
11	土田昇 (一問一答方式)	1. 福島第一原発の汚染を浄化した後の処理水のマスコミ報道について	(1) 処理水放出の問題点について	<p>①最近のマスコミ報道(新聞、テレビ等々)では、毎日のように福島第一原発の汚染水＝処理水の問題が大きく取り上げられており、漁業者等に「関係者の理解なしで処理水のいかなる処分も行わない。」と約束したと報道されているが、現状の認識について防災担当に伺う。</p> <p>②福島第一原発では2041年から2051年まで廃炉の完了を目指すとしているが、その間処理水の処理が求められると思うし溶融核燃料の取り出しに備えるとしているが、デブリの処理等々考えた場合大変な作業になると思うが、その点についてどのように感じているか伺う。</p> <p>③水産物以外の酒や菓子など様々な飲食物が現在税関に留め置かれていると報道されているが、農林水産省によると2022年の日本から中国へのコメ輸出量は764トンで輸出額は2億6,200万円とされているが、中国は福島第一原発の事故を受けて、福島や長野など10県の農水産物や食品、飼料などの輸入を停止して10県以外から食品を輸入してきていたが、10県のうち新潟県産のコメだけは2018年以降輸入を認めてきたが、新潟県産のコメや燕産などの現状はどのような状況か、今後の見通しも含め伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	土田昇 (一問一答方式)	2. 柏崎刈羽原発の今後の問題点について	(1)30キロ圏内である市の対応について	①県は30キロ圏内の市町村について、住民の広域避難の行動指針を公表している。燕市、新潟、村上、魚沼、湯沢と認識しているが、今一度明確な方針を示していくべきと思うがその点について伺う。 ②安定ヨウ素剤の保管、管理、運用はどうなっているか伺う。 ③今年の冬の国道8号線の問題をどのように感じたか伺う。
		3. 再生可能エネルギーの推進について	(1)燕市における小風力発電の可能性について	①今年1月25日の燕市再生可能エネルギー活用セミナーで配布された資料3の中で燕市における小風力発電の可能性で燕市の方針として2022年6月14日の定例議会で市長は「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指すゼロカーボンシティを宣言するとして、脱炭素社会実現と環境負荷軽減のため、様々な事業を進めることとしていると宣言しました。 1年と3ヶ月が経過した中で実現に向かって努力しなければならないと思うが、現在の心境と今後の対応について市長に伺う。 ②燕市における小風力発電の可能性と今後の見通しはどのような状況か詳細に伺う。 ③民間が開発する予定の分水地域での大規模太陽光発電について現在どのような状況になっているか伺う。
		4. 学校給食の無償化について	(1)新潟県の状況について	①全国では482の自治体で現在無償化が進んでいる。燕市としても今後実現するべきと思うが見解について伺う。 ②新潟県内で既に無償化が実施されている自治体はどのような状況か伺う。
12	渡邊広宣 (一問一答方式)	1. 財政負担と財源確保他事業の影響について	(1)財政負担の見通しと財源確保策について	①2020年からの新型コロナ禍の3年間、国、各自治体ともその対応策に追われ、財政規模が大きく膨らんだ。その一方、コロナ対策以外にも住民要望に応えるべく、施設整備行政サービス施策は増嵩している中、今後の財政負担と見通しについて伺う。 ②コロナ禍において社会経済、国民生活に多大な影響が出たが、本年、春以降ゼロコロナ下の社会経済活動のもと、企業活動(業績)、社会生活はコロナ禍前に戻りつつあるが、市の財源確保見通しについて伺う。
			(2)このような財政状況における他施策への影響について	①このような状況下の3年間、他施策(事業)の計画・予算化の影響について伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
12	渡邊 広宣 (一問一答方式)	2. 公共施設の将来負担について	(1) 公共施設の将来負担について	① 燕市建物系公共施設保有量適正化計画で将来の公共施設の在り方を計画し推進している。 燕市は、中小企業を中心として人口減少に直面している今日、市税の動向、住民行政需要増の中で、今後、公共施設の補修費、大規模改修に備えるべく、計画の見通しが必要と考えるが市の方針について伺う。
		3. 市内企業の経営状況と経済見通しについて	(1) ゼロゼロ(無担保無利子)融資について	① ゼロゼロ(無担保無利子)融資の返済が本年度本格的に始まっている。 市内企業の状況を把握しているか伺う。
			(2) 円安・原油高の影響について	① 最近、再び円安・原油高傾向にある中、政府の物価高補助金の縮小・打ち切り期限が来ている。 今後の市内企業の経営見通し景況感を把握しているか。また、その結果によって必要があれば対応する考えがあるか伺う。
			(3) 人手不足の状況と最低賃金について	① 社会経済活動の正常化に伴い運輸、宿泊、サービス業を中心に人手不足の状況下にある。 地方における人口の社会減、および大都市(東京圏)への人口流入が増加している中、燕市の状況について伺う。 ② 8月18日、都道府県ごとの最低賃金が出そろい、新潟県は上げ幅41円の931円になった。 企業収益が大きく伸びない市内企業における負担増の影響について伺う。
13	稲村 隆行 (一問一答方式)	1. LGBT理解増進法について	(1) LGBT理解増進法への対応について	① LGBTに関連する法整備を行った諸外国の現状について、市として状況を把握されているかお伺いします。 ② ①のように諸外国や他の自治体で起こったトラブルを未然に防ぐ方策を検討されているかお伺いします。
			(2) LGBTに関する条例の制定について	① 本市において、LGBTに関する条例の制定を検討されているかお伺いします。
14	宮路 敏裕 (一問一答方式)	1. 地域経済と小規模事業者支援について	(1) 事業者への金融支援について	① 国は「コロナ特例融資」の返済が始まる事業者に、資金繰り支援策として、コロナ貸換保証制度等を運用しているが、事業者へ周知され利用されているのか、把握していることを、伺う。 ② 貸換制度を利用する事業者にとっては、利子補給を望む声があるのではないかと、検討してはどうか、伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
14	宮路 敏裕 (一問一答方式)	1. 地域経済と小規模事業者支援について	(2) 物価高騰に対する支援策について	①国の交付金事業者支援に「中小企業に対するエネルギー価格高騰対策支援」がある。 それを活用してコロナ感染以前より、収入減少の事業者へ、光熱水費負担相当の支援を図ってはどうか、伺う。
			(3) 消費税インボイス制度導入問題について	①インボイス制度の導入により、燕市シルバー人材センターでは運営上新たな経費負担が発生すると想定されるが、どのようなことか、伺う。 ②公正取引委員会は免税事業者への一方的な受注単価の減額など起きないように実態を把握し、商工団体を通じた広報を行うと明言しているが、本市においても正確な広報が行われている状況なのか、把握していることを伺う。
		2. マイナンバーカード保険証の現状と今後の対応について	(1) マイナンバーカード保険証の現状と今後の対応について	①本市において、国保加入者の内マイナンバーカードに紐付けされた方はどれくらいか、伺う。 ②介護施設や高齢者施設では入所者の保険証を預かるケースがある。施設にとってはリスク管理上の課題が発生すると想定されるが、対応について国からの指示があるのか、伺う。 ③重度障がい者や知的障がい・認知症などによりカード申請が困難な市民について、家族や代理人による申請とカード受け取りなど、対応についてどうなるのか、伺う。 ④健康保険証を廃止しマイナンバーカードに一本化する政府方針の撤回や延期を求める声は世論調査で7割を超え、自治体や医療機関にとってもトラブル対応を迫られ、業務を負う関係職員はすでに疲弊している状況でないのか。 市民の人権と命、健康を守るために、燕市として「健康保険証廃止の撤回」と「マイナンバーカード制度の見直し」を国に対し要請していただきたいが、市長の見解を伺う。
15	岡山 秀義 (一問一答方式)	1. 地球沸騰化対応策について	(1) 学校体育施設や市内体育施設等冷房設備について	①今年7月の世界の平均気温が、観測史上最高となり国連事務総長は「地球沸騰化の時代が到来した」と警鐘を鳴らした。 この夏は災害級の暑さであった。 小中学校においては体育の授業や部活動が体育館高温の為、非常に危険な状況となっていた。市教育委員会は猛暑の予報を受け、市内学校部活動に期間を設けて中止を通達した。異常気象による沸騰化・地震・水害などの避難所としても体育館の重要性が以前よりも大きく高まってきている。 また、各種大会や生涯スポーツの場として毎日多くの市民が体育館を利用しているが当市には冷房設備の整った体育館が一つもないのが現状である。 夏場の避難所仮設空調、熱中症対策としての移動式エアコンや体育館専用換気機能付き空調機など今後、早急に導入を考えるべきと思うが認識を伺う。 (次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
15	岡山秀義(一問一答方式)	1. 地球沸騰化対応策について	(2) 野外部活動の活動について	①今年7月、山形県で部活動を終えた女子中学生が熱中症で亡くなるという悲しい事故があった。午前8時半から部活を始め、顧問の教員の指示で20分おきに水分を補給し、予定より1時間早い午前10時前に部活動を終了し帰宅途中の出来事であった。これから夏場の部活動に関しては生徒の命にかかわる喫緊の問題として取り組んでいかなければならない。夏休み中の野外部活動に関して活動開始時間を涼しい時間帯にしていくという選択肢も必要と考えるが認識を伺う。
			(3) 「暑さ指数」について	①厳しい暑さの中で部活動を実施するときは、事前に気温や湿度などから熱中症予防の指標とする「暑さ指数」を当市はどのように測定し中止や制限を決めているのか。また、どのようにガイドラインで定めているのか伺う。
		2. 放課後児童クラブについて	(1) 放課後児童クラブの現状について	①放課後児童クラブは保護者の就労等により家庭での児童の生活が困難な場合に、保護者に代わり児童の生活指導や遊びの促進を行うところである。核家族化や保護者の共働き等により、放課後児童クラブの利用性が高まっている。首都圏などでは現在も待機児童が1万5,000人以上とされているが燕市では待機児童0と聞いている。現状と利用者の推移について伺う。 ②国・県に沿ったガイドラインにおいて、児童1人あたり1.65㎡、畳1枚分の広さと定められているが施設によっては厳しいところもあると感じている。学校の放課後利用できるスペースを活用するなど定員オーバーにならないように対応しているが本当に面積基準を満たしているのか疑問である。そもそも1.65㎡が良いのか。子供たちの健全をはかるといふ児童クラブ本来の働きを満たすには限界を感じている。現状は子供たちを管理せざるを得ないクラブがほとんどで本来、子供の持っている性質は伸び伸びと体を動かして遊びたいというのが本質でありガイドラインの数値は限界値と考える。あくまで国の最低基準であってこれを満たせばいいのか。果たして本当に子供の健全育成につながっているのか認識を伺う。 ③子供たちにとって支援員は第二の親である。一人ひとりの支援員の現場の声がしっかりと届いているのか、支援員にアンケート等、行っているのか伺う。 ④おやつ必要性について認識を伺う。 ⑤今後、放課後児童クラブ民営化についての考えを伺う。 ⑥放課後児童クラブの大規模化によって弊害がうまれていると感じている。質も意識していくべきである。待機児童対策と子供たちの放課後の生活の場の質の確保。これを車の両輪として進めていく施策が必要と考えるが認識を伺う。